

プロスポーツチームによる大学との連携：
関西圏に本拠地を置くプロスポーツチームに着目して

堀 込 孝 二*¹ 前 田 和 範*²

**University Collaboration with Professional Sports
Teams:
Focusing on professional sports teams based in the
Kansai region**

Koji Horigome Kazunori Maeda

Abstract

The number of professional sports teams in Japan is increasing as is the need for the diversification of human resources. The objective of this study is to provide insight into the collaboration of professional sports teams in the Kansai area in Japan with universities, and to examine the different kinds of collaboration. The internet survey conducted indicated that there are six types of collaboration between professional sports teams and universities : collaboration, planning practice, fieldwork/volunteer, surveys, lectures, and others. It was evidenced that the Nippon Professional Baseball Organization (NPB), Japan Professional Football League (J. League), and Japan Professional Basketball League (B. League) had different types of collaboration with universities. In particular, since there are several collaborations in the sports business and management area, it is important for professional sports teams to emphasize their human resource requirements and for universities to meet such requirements.

キーワード

プロスポーツチーム、大学、連携、関西地域、スポーツマネジメント教育

I 研究の背景と目的

経済産業省¹⁾によると、日本のプロ野球（NPB）では、2013年以降の観客動員数は右肩

* 1 ほりごめ こうじ：大阪国際大学人間科学部講師（2020.12.3受理）

* 2 まえだ かずのり：高知工科大学経済・マネジメント学群助教

上がりに増えており、球団別にみても12球団すべてにおいて伸びがみられている。2013年から2019年にかけて、特にセ・リーグでは横浜DeNAベイスターズの観客動員数が1.6倍となり、パ・リーグにおいては東北楽天ゴールデンイーグルスの観客動員数が1.4倍になっていることが報告されている¹⁾。

プロ野球から遅れること約60年、1993年に設立された日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）においても、同じく2013年からのデータでは、J1からJ3のそれぞれのカテゴリーは微増ではあるが増加傾向といえる。J1においては、1試合平均の観客動員数が2019年に初めて2万人を超えた²⁾。

さらに、2016年から始まったバスケットボールの新プロリーグである「Bリーグ」も観客動員数は右肩上がりであり、2018年度（2019-2020年シーズン）の見込みでは、入場料収入が全体で約48億3000万円となっている³⁾。これは昨年度対比で14.4%のアップ、設立初年度の2016年と比較すれば44.1%もアップしたことになる。設立後3年で全体の営業収入としても約150億円から221億円と47.3%も増加しており、まさにプロスポーツリーグとして成功しているリーグと言えるだろう。

そして、2021年9月には日本初のサッカー女子プロリーグ「WEリーグ」の開幕が予定されている。2020年10月15日に初代チェアである岡島喜久子氏はオンラインで会見を行い、初シーズンを11クラブで開催することを発表した。このリーグはアマチュアで存続するまでしこリーグの上位に位置づけられるリーグであり、当面は降格がなく新規参入のみとなるため、今後クラブ数はさらに増加するものと思われる⁴⁾。

九州ではプロ野球独立リーグの運営を目的とする「九州独立プロ野球機構」が設立され、2021年より大分県の「大分B-リングス」、熊本県の「火の国サラマンダーズ」の新たな2球団が加盟し開幕を予定している。初年度は来年3月20日開幕、年間80試合程度を実施することとなっている⁵⁾。

以上のことから、我が国のプロスポーツ産業は依然として発展を続けており、プロスポーツチーム数は今後も右肩上がりが増えていくことが予想される（図1）。

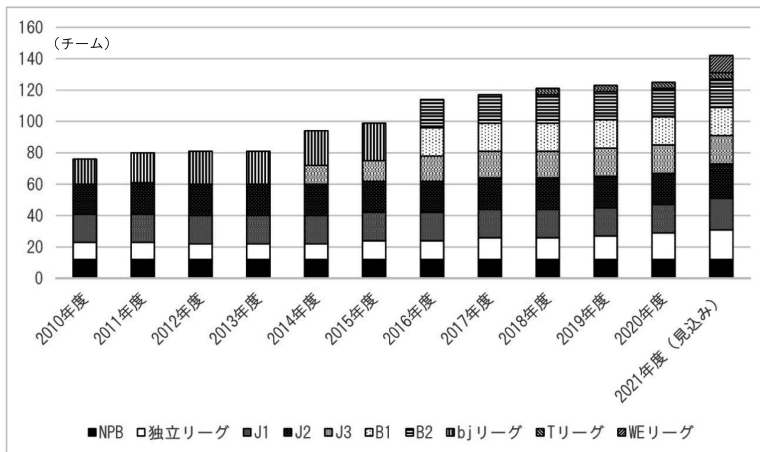


図1 日本におけるプロスポーツチーム数の推移（出典：各リーグ資料から著者作成）*1

プロスポーツチームによる大学との連携：関西圏に本拠地を置くプロスポーツチームに着目して

さらに、2022年1月にはラグビーの新リーグ設立も控えている。当初の予定では2021年秋の開始を目指していたが、新型コロナウイルスの感染拡大や東京オリンピック・パラリンピックの開催延期などの状況をふまえて約半年延期された形になったが、今のところ設立に向けて日本ラグビー協会が事業を進めている。

この10年の流れ、そして今後10年単位で見てもプロスポーツリーグが増加の一途を辿ると予測され、その土壌は整ってきていると言える。そこで問題になるのが人材の確保・育成である。チーム数が増加すれば選手や指導者はもちろんだが、それ以上に経営者や球団スタッフなどの確保・育成が急務となるのは容易に予測できる。指導者や選手の育成は、ライセンス制度や小学生のスクールなどが普及しつつあるため、現状としてはチームスタッフと比較して整っていると言える。プロスポーツチームはプロである以上、優秀で経験豊富な人材確保・育成が必要となるが、経営者・スタッフ側の人材育成は、十分になされているのだろうか。

広瀬⁶⁾によれば、「スポーツ組織の人事で最も重要なことは、スポーツ組織の特殊性を理解すること」と述べている。続いて「スポーツ組織においては一般的な組織と異なり、自分がやりたい仕事と明確である人が多いので、やらないといけない仕事とやりたい仕事とが特に対立する」と述べている。さらに「スポーツ組織の構成員のほぼ全員がスポーツ好き」「仕事と趣味の区別がつかなくなって、やりたいことだけに走ってしまう」傾向にあり、「スポーツ組織の構成員は1人で何役もこなさなければならない」とも述べている。実際に、プロスポーツチームの業務は多岐にわたり、BtoCであるチケット販売やBtoBがメインであるスポンサー営業などサービスを販売する業務のほか、マーチャンダイジングのようにグッズの販売業務、さらには試合やイベント運営の業務など様々なジャンルの業務をこなすことが必須である。さらに、スポーツチームを支えるという広い視点に立つと、そこにトレーナーや栄養士などのチームスタッフの役割も重要となる。それにも関わらず、経営状態に余裕がなくマンパワーが不足しているチームやクラブが多い。つまり、高いスキルが求められる仕事に対して、スポーツ自体に強い興味がある人材が集まる傾向があり、プロスポーツチームが求める人材とそこに集まる人材のスキルの間には、大きなギャップが生じていることが現状として見受けられる。

プロスポーツ産業における人材育成の観点から、高等教育機関におけるスポーツ関連の学部設置状況を見ると、2003年4月に日本ではじめてスポーツを大学名に入れたびわこ成蹊スポーツ大学が新設され、同時に早稲田大学がスポーツ科学部を開設した。この年から2007年にかけての5年間でスポーツを冠した学部や学科が20大学以上に設置された⁷⁾。それから約20年経ち、さらに高等教育機関である大学にスポーツ関連の学部、学科が増加した。中でも、関西におけるスポーツ関連の学部・学科を持つ大学は42大学に上る⁸⁾。

こうしたスポーツ関連大学におけるカリキュラムの内容や変遷に関しては、主にスポーツマネジメント分野において研究が蓄積されてきた。スポーツマネジメント教育は、カリキュラムの体系的な提供や、学問としての認識の統一が必要とされていることに加え⁹⁾、実践の場でいかに役立つように学問を応用していくことができるかに注目が集まっている¹⁰⁾。櫻井ほか¹⁰⁾は、特に獲得した知識を実践力へ昇華させる演習科目の内容分析や検

討の重要性を主張しており、プロスポーツクラブが求める人材を検討した研究¹¹⁾や、それをもとにした演習科目におけるルーブリック作成に関する研究¹²⁾などが進められている。さらに、プロスポーツチームとの連携がスポーツマネジメント教育の質保証につながる¹³⁾という観点もある。以上のことは、マネジメント分野以外のあらゆるスタッフの育成に対しても重要な視点であり、こうした演習科目に対する更なる分析は依然として必要である。今後もプロスポーツ産業が発展していく中では、プロスポーツチームが大学とどのように連携し、演習を実施していくことが望ましいかを継続的に検討していく必要がある。

そこで本研究では、プロスポーツチーム側の視点に立ち、主に関西におけるプロスポーツチームが高等教育機関である大学といかに連携しているかを明らかにすることを目的とし、主に実践としての取り組みの現状を包括的にまとめることとした。

Ⅱ 研究方法

インターネットを活用し、関西におけるNPB、Jリーグ、Bリーグに所属するプロスポーツチームと関西を所在地とする大学との連携事業の2015年から2020年までの実績を調査した。具体的には、プロスポーツチームおよび大学のホームページ上に掲載されている連携事業の情報を、インターネット検索を用いて収集した。検索の際のキーワードは、「(チーム名)、大学、連携」とした。そして、連携事業を以下の定義で6つにカテゴリー分けを行った(表1)。

表1 プロスポーツチームと大学の連携事業のカテゴリー分け

A	協働型	大学とチームが包括的に連携をとる形式(学生はその中で様々なイベントに参加する)
B	企画等実践型	学生が主体となってイベントを企画し実践するなど、チームが学生側に一定の権限を持たせる形式
C	フィールドワーク/ボランティア型	学生が主としてチームやチーム活動のボランティアに参加する形式
D	調査型	学生がアンケート調査を行った結果をチームにプレゼンテーションする形式
E	講義型	チームが用意したプログラムを学生が見学・体験したり講話を聴講する形式
F	その他/不明	スポンサーとして連携しているがそれ以上の情報が明らかではなかったもの

Ⅲ 結果および考察

2015年からの5年間において、関西の大学との連携事業を実施していたプロスポーツチームは、NPBでは阪神タイガースとオリックス・バファローズ、Jリーグではガンバ大阪・セレッソ大阪・京都サンガFC・ヴィッセル神戸、Bリーグでは大阪エヴェッサ・京都ハンナリーズ・滋賀レイクスターズ・西宮ストークス・バンビシヤス奈良であった。連

プロスポーツチームによる大学との連携：関西圏に本拠地を置くプロスポーツチームに着目して

携した実績のある大学は38大学であり、大学名称および連携内容の詳細に関しては、付録を参照されたい。

カテゴリーに着目すると、「協働型」では、プロスポーツチームが大学を会場として試合・イベントを開催したり、包括的な連携の中でも、医療・健康をテーマにしたもの、ビジネス・マネジメントをテーマにしたものなど、内容は多岐にわたった。「企画実践型」は、ビジネス・マネジメント系の学部や研究室と連携を図ったものが多く見られた他、学生に会場の一部や配布物のデザインを担当してもらうもの、医療・健康および栄養をテーマにしたものが見られた。「フィールドワーク／ボランティア型」「調査型」「講義型」でも、ビジネス・マネジメントに関する内容がほとんどを占めた。これらの結果からは、プロスポーツチームが様々な意図を持って大学と連携していることが明らかになり、特にビジネス・マネジメント系に対する期待値が高いことが伺える。

連携実績のある大学数をリーグ別で算出してみると、NPBが11大学、JリーグとBリーグはともに16大学であった。リーグごとの大学との連携事業のカテゴリー分けを行なった結果は、以下の通りである（表2、図2）。

表2 関西圏のプロスポーツチームの大学との連携事業の分類およびカイニ乗検定の結果*2

連携事業のカテゴリー	NPB		Jリーグ		Bリーグ		検定
	n	%	n	%	n	%	
協働型	0	0.0	6	37.5	6	37.5	$\chi^2 = 25.20^{**}$
企画等実践型	3	27.3	4	25.0	2	12.5	
フィールドワーク／ボランティア型	3	27.3	1	6.3	4	25.0	
調査型	5	45.5	0	0.0	0	0.0	
講義型	0	0.0	2	12.5	1	6.3	
その他／不明	0	0.0	3	18.8	3	18.8	
合計	11	100.0	16	100.0	16	100.0	

** $p < .01$

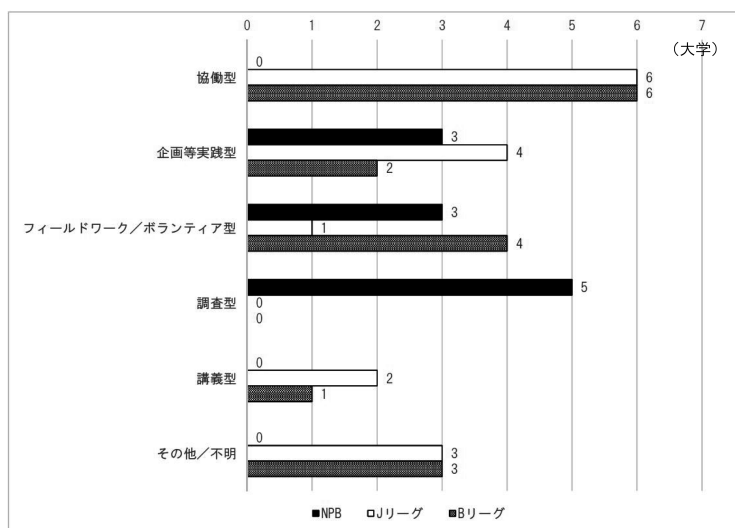


図2 関西圏のプロスポーツチームの大学との連携事業の分類

NPBは2、Jリーグは4、Bリーグは5と関西における各リーグのチームやクラブ数にばらつきがあるものの、カイ二乗検定の結果からも、リーグによって傾向が違うことが明らかになった。BリーグとJリーグは比較的類似した結果を示しているが、企画等実践型の割合がJリーグは大きくなり、講義型の連携もJリーグとBリーグクラブにだけ見られる特徴となった。一方、NPBは他2リーグで最も多かった協働型は全く見られず、調査型が最も多かった。さらに、NPBは講義型もなく、NPBのみ全く違った内容となっていることが分かった。

これらはリーグ自体の成り立ちや地域密着型を目指すリーグ理念の有無などが大きく関係していることが考えられる。特にチームと大学の包括的な連携を行う協働型の事業には、両者の調整事項も多くなる。JリーグやBリーグのクラブに協働型事業への積極性がみられるのは、リーグ全体として注力しているホームタウン内での地域密着型戦略を、各クラブが着実に実行していることの裏付けであるとも言える。特定の地域にキャンパスを構え教育活動を展開する大学側からみても、同じ地域の活性を目指すプロスポーツクラブとの連携は、比較的調整しやすいという側面があるのかもしれない。一方で、NPBは、兼ねてから企業ビジネスの一つとして扱われてきたため、経営規模も比較的大きく、あらゆる決定事項にオーナー企業の意向も関わってくる。そのため、他団体との包括的な事業は進めにくい側面があることも考えられる。しかし近年では、NPBは各チームレベルにおいて地域密着を図る動きがみられる。本調査の結果からも、関西のNPBのチームも積極的にその他の連携事業を進められていることが明らかになったため、今後の展開を注視したい。今後は、チームやクラブと大学が連携する際の両者の詳細な目的や、連携事業を実施する上での課題などを整理していくことも重要であろう。

IV まとめ

本研究では、プロスポーツチーム側の視点から、関西圏のプロスポーツチームが大学と如何に連携しているかを明らかにした。その結果、スポーツビジネス・マネジメントをテーマとした連携が多いことが明らかになり、全体としては、リーグ毎に連携の傾向が異なることが明らかになった。

大学のスポーツマネジメント教育の観点からは、プロスポーツチームやクラブとの連携をいかに図っていくかが重要視されていることから、今後も両者の連携事業を構築していくことは効果的であることが考えられる。スポーツマネジメント教育の中で学生の選好に着目した棟田ほか¹⁴⁾は、「大学が提供する教育は企業が提供する商品とは異質なものであり、それらの選好をすべて反映させるわけにはいかない。可能な限り考慮した教育プログラムを開発していくことでよりよい人材の獲得と輩出が期待できる」と述べている。専門知識を持つ教員やプロスポーツチームとの連携を構築するための人的ネットワークなど、大学側のリソースは限られているものの、人材を輩出する側である大学と、受け入れる側である企業、いわゆるチーム側が求める人材を明確化し、そのニーズに応えられる人材をいかに教育、育成していくかについては今後も議論されていくべきであろう。先行研究では大学側の視点に立ったものが多く見られることから、今後はさらに現場であるチー

プロスポーツチームによる大学との連携：関西圏に本拠地を置くプロスポーツチームに着目して

ムやリーグ側へのインタビュー調査などが今後必要と考えられ、また同時に大学という高等教育機関がそれにどこまで対応することができるかも検討していく必要がある。

注記

- *1. Bリーグ開幕以前、プロバスケットボールチームはbjリーグとNBLという両リーグに存在していたため、2015年度まではプロリーグであるbjリーグに加入していたチームを集計に加えている。また、2018年度から開幕した、卓球のプロリーグであるTリーグも集計に含めた。
- *2. Jリーグでは、毎年の観戦者調査を各大学が担当して行っているが、クラブと大学の具体的な連携事業の内容を捉える本研究の主旨とは異なるため、本研究の分析からは除外した。

参考・引用文献

- 1) 備前嘉文・辻洋右・棟田雅也 日本の大学におけるスポーツマネジメント教育の現状と課題：この10年で日本のスポーツマネジメント教育はどう変わったか スポーツマネジメント研究 第11巻1号 37-46、2019
- 2) Bリーグ B.LEAGUE クラブ決算概要 発表資料(2018-19シーズン)
https://www.bleague.jp/files/user/about/pdf/club_financial_settlement_2018.pdf
- 3) 広瀬一郎 スポーツマネジメント入門 第2版 東洋経済新報社 2012
- 4) 石橋修 高等教育機関におけるスポーツマネジメント教育の展開と課題 産業文化研究 第26号 19-27、2017
- 5) Jリーグ J.LEAGUE Data Site <https://data.j-league.or.jp/>
- 6) 経済産業省 経済解析室ひと言解説集『2019年のプロ野球観戦者数は過去最高を更新。何がプロ野球ファンを増やしたのか?』2020.9
https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20200928hitokoto.html
- 7) 松岡宏高 日本の大学におけるスポーツマネジメント教育の現状と課題 びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要 第5号 71-76、2008
- 8) 棟田雅也・富山浩三・大野貴司 スポーツマネジメント教育プログラムにおける学生の選好に関する研究 体育・スポーツ経営学研究 第31巻 41-54、2017
- 9) 西村貴之・田島良輝・佐々木達也・櫻井貴志・神野賢治・岡野 紘二 スポーツマネジメント教育のより良い実習課題づくりに向けたルーブリックの活用 スポーツ産業学研究 第29巻3号 177-190、2019
- 10) 西日本新聞『九州に野球独立リーグ、来年3月開幕 大分と熊本の2球団が加盟』2020.11
<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/661296/>
- 11) 櫻井貴志・田島良輝・西村貴之・神野賢治・佐々木達也・岡野 紘二 日本の大学におけるスポーツマネジメント教育に関するカリキュラム分析 スポーツ産業学研究 第27巻4号 333-340、2017
- 12) スポーツ報知『サッカー女子プロリーグ「WEリーグ」11クラブで来年9月開幕…なでしこリーグの上位に位置づけ』2020.10
<https://hochi.news/articles/20201015-OHT1T50238.html>
- 13) スポーツ産業学研究 資料『スポーツ関連大学の入試情報一覧(2019年度)』スポーツ産業学研究 第29巻第4号 293-298、2019
- 14) 田島良輝・西村貴之・櫻井貴志・岡野紘二・神野賢治・佐々木達也 プロスポーツクラブの求める人材 スポーツ産業学研究 第28巻1号 53-62、2018

付録 チームと大学の連携表

タイプ	リーグ	府県	チーム名	大学名	内容	サブジャンル
協働型	Jリーグ	大阪府	ガンバ大阪	大阪国際大学	シルバーパートナー。万博記念競技場（大阪府吹田市）で行われたガンバ大阪のホームゲーム「ガンバ大阪 対 アルビレックス新潟戦」が、『大阪国際大学パートナーデー』として、開催された。 当日は、公式戦に先立ち試合会場を使って、事前に応募のあった地域の小学生108名を対象にキッズサッカースクールを実施。ガンバ大阪のアカデミーコーチが指導にあたり、本学女子サッカー部が同コーチをサポートした。参加した小学生は真剣な眼差しでコーチの指導を受けていた。	試合／イベント開催
協働型	Jリーグ	大阪府	ガンバ大阪	千里金蘭大学	吹田市及び千里金蘭大学と保護者を対象に、身体あそびを通じた子どもの育ちに関するセミナー（講義及び実践）を保育付きで実施。昨年度（平成30年度）から始まった産学官が連携したセミナーは、それぞれの視点及び特徴を活かして、子どもの「こころ」と「からだ」の健やかな育ちにつながる「いろいろな身体の使い方」や「やる気につながるアプローチ方法」の紹介等、大学があるまち、ガンバがあるまち、吹田市ならではの情報発信の1つとして、実施している。	試合／イベント開催
協働型	Jリーグ	大阪府	ガンバ大阪	大阪大学	研究や医学、スポーツの発展を目指して相互協力するフレンドシップ協定を結ぶ	医療・健康
協働型	Jリーグ	大阪府	セレッソ大阪	大阪教育大学	アカデミックパートナー。フレンドシップ協定の締結。各機関が有する知的資源、人的資源及び物的資源の相互活用を通して各々が担う地域社会等への貢献ならびに様々な分野において活動の充実を図っていく。	その他
協働型	Jリーグ	大阪府	セレッソ大阪	大阪歯科大学	「セレッソ大阪アカデミーと大阪歯科大学の連携研究協定」2020年に東京でのオリンピックを控え、人々のスポーツに対する関心は高まりつつあり、歯科からの対応も様々な形でなされている。今回、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブと大阪歯科大学と共同で、口腔環境とフィジカルパフォーマンスとの関連を明らかにすることを目的としている。	医療・健康
協働型	Bリーグ	京都府	京都ハンナリーズ	京都産業大学	「創立50周年記念企画としてプロバスケットボール 京都ハンナリーズの公式戦が本学で開催」 プロバスケットボールTKbjリーグの京都ハンナリーズの公式戦が、本学総合体育館で行われる。創立50周年を記念したプロバスケットボールとの連携企画として実現した。両日の試合前には関連イベントも開催される。	試合／イベント開催
協働型	Bリーグ	滋賀県	滋賀レイクスターズ	滋賀大学	「データサイエンス学部学生がプロバスケットボールのゲームデータ分析に挑戦」 この協定によるプロジェクトの大きなトピックスは、データサイエンス学部学生が滋賀レイクスターズのゲームデータの分析と、そのフィードバックを行うことである。これによりチームの戦略・戦術の向上を図り、勝率アップへの貢献が期待される。	その他
協働型	Bリーグ	滋賀県	滋賀レイクスターズ	びわこ成蹊スポーツ大学	アカデミックパートナー。 これまで学生のインターンシップ実習の受け入れや幼少期の子どもたちに対する運動指導（スポンジエイジ）などを中心に協力関係にあったが、2015年度からは、チームの栄養指導をはじめ、新たに「アカデミックパートナー」として提携することが決まった。TKbjリーグ2015-2016シーズン（2015年10月～）より、滋賀レイクスターズのホームゲーム会場での運営ボランティアスタッフが着用するウェアに、びわこ成蹊スポーツ大学のロゴを掲載。	ビジネス・マネジメント
協働型	Bリーグ	大阪府	大阪エヴェッサ	大阪学院大学	ゴールドパートナー：「大阪学院大学チャレンジキッズ2017」地域連携活動の一環として、小学生対象の多種目スポーツ体験イベント「大阪学院大学チャレンジキッズ2017」を開催した。 本学クラブ生および外部コーチ指導のもと、参加した子どもたちはバスケットボール・ゴルフ・野球・卓球を体験した。仲間と協力しながら全力で競技に取り組み、それぞれのスポーツの魅力を十分に味わっていた。またミニイベントとして、子ども向けに囲碁体験やストレッチ、保護者様向けにゴルフのワンポイントレッスンなども行い、子どもたちだけでなく、大人にも楽しみながら参加した。	試合／イベント開催

プロスポーツチームによる大学との連携：関西圏に本拠地を置くプロスポーツチームに着目して

タイプ	リーグ	府県	チーム名	大学名	内容	サブジャンル
協働型	Bリーグ	滋賀県	滋賀レイクスターズ	藍野大学	リハビリテーション専門職の活躍の場を拡大する一環として、次世代のスポーツ産業で活躍する人材輩出に取り組むため、2020年4月に設置するびわこリハビリテーション専門職大学とB.LEAGUE所属のプロバスケットボールチーム「滋賀レイクスターズ」におけるアカデミックパートナー契約を締結した。	ビジネス・マネジメント
協働型	Bリーグ	奈良県	バンビシャス奈良	天理大学	天理大学袖之内第一体育館で、bjリーグ所属のバンビシャス奈良が、同所属の金沢武士団と対戦した。天理で初めてプロバスケットボールの公式戦が開催されるに当たり、並河市長から挨拶があった。この日は約1000人の観客が試合観戦し、迫力のある試合展開に会場からは歓声が沸き起こっていた。	試合／イベント開催
協働型	Jリーグ	大阪府	セレッソ大阪	森ノ宮医療大学	森ノ宮カップ少年サッカー大会（通称森ノ宮カップ）。一年を通して森ノ宮医療大学とセレッソ大阪スポーツクラブが共同で開催する少年サッカー大会。健全なサッカー少年を育成し、技術の向上とコンディショニングの大切さを啓蒙することを目的にサッカーを通じて友情の輪を広げて同年代の選手の交流を図る。また、医療大学ならではのミニイベントも同時開催。	医療・健康
企画等実践型	NPB	兵庫県	阪神タイガース	流通科学大学	「地域球団をいかに活性化するか？」を課題に本学のゼミ（チーム）対抗で競い合い、より良い提案を行おうというもので「学生が提案するファン拡大策」をテーマにした最終報告会も実施された。	ビジネス・マネジメント
企画等実践型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	帝塚山大学	プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦「対阪神タイガース」において、佐藤薬品スタジアムを「宣伝費0円で」満員（目標3,000人）にすることを目標に、本学学生が企画・マーケティングを担当するというのが「球場を満員にするプロジェクト」である。本プロジェクトは、地域に根ざした球団をめざすオリックス球団が「奈良県スポーツ推進計画」に基づき、県全体でスポーツの推進に取り組んでいる奈良県に打診し、県内の各大学に呼びかけ、本学が名乗りを上げたことにより、5月に奈良県庁でオリックス球団社長・奈良県知事・帝塚山大学長の三者による記者発表を皮切りにスタートした。	ビジネス・マネジメント
企画等実践型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	帝塚山学院大学	「帝塚山学院大学×オリックス・バファローズ コラボプロジェクト2019」オリックス・バファローズの選手寮の食卓メニューを学生が開発するプロジェクトを行っている。「アグリッピンに個別指導！バファローズ寮めし」というテーマで、若手選手が持つ個人課題の解決に向けて、食事・栄養の面からサポートするという内容。	栄養
企画等実践型	Jリーグ	大阪府	ガンバ大阪	大阪青山大学	シルバーパートナー。連携して進める「GAMBA大阪連携プロジェクト」。サービス・ラーニング「学びを活かして地域に貢献する」の実践を主軸に、各学科の特色を活かしたさまざまな活動。松本山雅FC戦が行われるパナソニックスタジアム 吹田場外「Gパーク」にてブース出展を行った。「骨密度測定」（大人対象）と「サッカーボウリング」（子ども対象）、二つのプログラムを企画し、実施。	医療・健康
企画等実践型	Jリーグ	大阪府	セレッソ大阪	大阪市立大学	アカデミックパートナー。商学部（小林哲ゼミ）学生の皆さんの企画によるコラボイベントの実施。フレンドシップ協定の締結。各機関が有する知的資源、人的資源及び物的資源の相互活用を通して各々が担う地域社会等への貢献ならびに様々な分野において活動の充実を図っていく。	ビジネス・マネジメント
企画等実践型	Jリーグ	京都府	京都サンガFC	びわこ成蹊スポーツ大学	ホームゲームにおいてびわこ成蹊スポーツ大学PRブースを設置。インターンシップ実習で京都サンガFC.にお世話になる学生5名がオリジナルコラボうちわや大学案内、BSSCジャーナル等が入ったセットを来場者へ配布し、精力的に大学のPR活動を行った。また、今回は試合前の特別イベント企画として、本学コーチングコースの望月教授と京都サンガFC.の大槻スクールコーチによる「＜女子大学生限定＞はじめてのサッカー観戦講座」も開催され、講座ではサッカー観戦初心者でも安心して試合が楽しめるように観戦方法や試合の見所などをわかりやすく解説された。	ビジネス・マネジメント

国際研究論叢

タイプ	リーグ	府県	チーム名	大学名	内容	サブジャンル
企画等実践型	Jリーグ	兵庫県	ヴィッセル神戸	神戸学院大学	パートナーシップを締結して以来十年以上にわたって、ヴィッセル神戸へのインターンシップ生の派遣や特別講義の開講など、さまざまな連携活動を行っている。 その間、パートナーシップ事業をきっかけに、ヴィッセル神戸を応援する「学生サポーター事業」をはじめとする数多くのプロジェクトが立ち上げられた。各取り組みはすべて学生によって企画・運営され、ボランティア活動や各種イベント、学部の特徴を生かした産官学連携プロジェクトを実施。その活動は広範囲に広がっている。学生はこのようなプロジェクトを通じて、授業で学んだ理論をどのように実社会で生かすかを学ぶ。	ビジネス・マネジメント
企画等実践型	Bリーグ	京都府	京都ハンナリーズ	京都芸術大学	プロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」の運営会社からの依頼に基づき、チームの認知度向上と来場者増に向けたPR活動を行うプロジェクトを実施。今年度はデザインワークを中心に、ホームゲームで配布されるゲームプログラムの制作や会場内一部の装飾を担った。観客へのアンケート等も綿密に行い観客の意識把握にも貢献した。	その他
企画等実践型	Bリーグ	兵庫県	西宮ストークス	関西学院大学 神戸学院大学	西宮ストークス集客企画対決「K.G.Uマッチ」 「K.G.Uマッチ」では、関西学院大学林ゼミと神戸学院大学柳ゼミの学生が2/15,16に実施するホームゲームの集客企画を立案・実施し、各施策について西宮ストークスが評価を行い、勝者を判定する。 ■実施企画 <関西学院大学 人間福祉学部 林直也ゼミ> 「スタッフ全員小学生?! お仕事体験in西宮ストークス」 実施日：2月15日(土) <神戸学院大学 経営学部 柳久恒ゼミ> 「溶けそうなくらいアツい1日! ピンクレディースDAY」 実施日：2月15日(土)・16日(日)	ビジネス・マネジメント
フィールドワーク /ボランティア型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	大阪芸術大学	大阪芸術大学の学生によるプロ野球中継がネット配信され、新聞各紙にも取り上げられて注目を集めた。これは、富田林バッファローズスタジアムで行われたプロ野球ウエスタン・リーグ、対福岡ソフトバンクホークスの公式戦で、放送学科アナウンスコース4年の中西英伸君と安西亜里彩さんが実況アナウンサーに挑戦し、富田林市役所のウェブサイトでも音声配信されたもの。	その他
フィールドワーク /ボランティア型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	藍野大学	プロスポーツにおける医療体制やスポーツ障害に関する理解を深めることを目的としたプログラムを実施。2019年度はオセアンバファローズスタジアム舞州で選手、スタッフの動きや技術を間近で見学。また、管理栄養士やアスレティックトレーナーに施設を案内してもらい、プロスポーツ選手の食事方法や栄養管理、リハビリやトレーニング、プロ野球選手への理学療法士としての関わり方について話を聞く。	医療・健康
フィールドワーク /ボランティア型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	森ノ宮医療大学	連携協定を結び、学生による球場での見学ツアーなど、さまざまな取り組みを行っている。	医療・健康
フィールドワーク /ボランティア型	Jリーグ	大阪府	ガンバ大阪	追手門学院大学	ゴールドパートナー。エコ活動パートナー。①学生による市立吹田スタジアム内外での環境保全啓発活動「エコボランティア」②ガンバ大阪におけるインターンシップ③オフィシャルパートナーとして、スタジアム内のデジタルサイネージ及びマッチデープログラムに広告を掲載	ビジネス・マネジメント
フィールドワーク /ボランティア型	Bリーグ	京都府	京都ハンナリーズ	龍谷大学	「社会学部コミュニティマネジメント学科学生が京都ハンナリーズの運営ボランティアを体験」 試合において、コミュニティマネジメント実習（プロジェクト型実習）を履修する学科生8名が運営ボランティアを体験。ゲームプログラムの配布やチケットの確認など割り当てられた業務を行う。今後、プロジェクトでは、これらの体験から学んだことを通じて、スポーツを用いて滋養を元気にするための企画を考え、実施していく。	ビジネス・マネジメント

プロスポーツチームによる大学との連携：関西圏に本拠地を置くプロスポーツチームに着目して

タイプ	リーグ	府県	チーム名	大学名	内容	サブジャンル
フィールドワーク ／ボランティア型	Bリーグ	大阪府	大阪エヴェッサ	追手門学院大学	オフィシャルパートナー：2015年度「スポーツフィールド実習Ⅰ」スポーツキャリアコースの授業の一環として「スポーツフィールド実習Ⅰ」を実施する。これは、国内のトップチーム・トップ選手の取り組みに間近に触れながら学ぶというもの。学生が3日間にわたり国内のプロ・社会人のトップチームの活動の現場で練習の見学や公式戦の観戦、試合準備・会場設営補助などを行う。	ビジネス・マネジメント
フィールドワーク ／ボランティア型	Bリーグ	大阪府	大阪エヴェッサ	大阪産業大学 スポーツ健康学部	「スポーツ健康学科が大阪エヴェッサとアカデミックパートナーシップを締結」 スポーツ健康学部新設に向け、さらにパワーアップを図るため、日本プロバスケットボール所属の大阪エヴェッサ（2016年秋開幕 Bリーグ1部WEST所属決定）とアカデミックパートナーシップを締結した。 今後は試合観戦だけでなく、試合運営の視察、フィールドワーク、インターンシップ等を通してプロ球団の経営に触れながら、スポーツマネジメントの実践力をあげていく。	ビジネス・マネジメント
調査型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	大阪商業大学	花園セントラルバファローズスタジアムにて、プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦（オリックス・バファローズ対中日ドラゴンズ戦）の来場者調査を実施。この取り組みは、「O B PゼミナールⅢ」（O B P 3年生ゼミナール）におけるプロジェクトの一つで、アンケート調査の方法やデータ分析方法を学ぶためにオリックス・バファローズと連携して実施している。 毎年球団から提示されるテーマに基づき、調査研究を行い、球団関係者の方々へ向けて報告会を実施。	ビジネス・マネジメント
調査型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	関西大学	本プロジェクトは、高槻市の荻谷総合公園野球場で行われる2軍戦の来場者動向調査の実施および、分析と集客力向上や球団活性化に向けたマーケティング提案を行うもの。 学生たちは同球団本拠地である京セラドームへの訪問や同球団関係者による大学キャンパスでの特別講義などを経て、「ベースボールマーケティング」を学習。その後、2軍公式戦で調査を行う。 11月はオリックスが「大学生によるマーケティングプレゼンテーション」を主催し、別の地域で調査活動を実施していた他大学のゼミと合同で調査報告会を実施。	ビジネス・マネジメント
調査型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	摂南大学	球団社員を講師に招き、プロ野球ビジネスについての講義を行うほか、実際に球場に向きアンケート調査などを行い、ベースボールビジネスを通して、生きた経済学を学ぶ。 京セラドーム大阪で行われる公式戦を、摂南Family（卒業生、在学生、受験生とそのご家族・関係者）が交流を深め合うホームカミングデイ「A I I 摂南大学 Day」として開催する。	ビジネス・マネジメント
調査型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	天理大学	奈良県橿原市の佐藤薬品バファローズスタジアム（ワンデynieックネーム）で行われた公式戦（ウエスタン・リーグ）対広島東洋カープ戦で観客調査を実施。今回の調査は、オリックス球団側からの提案で、テーマを「子どもの観客数増加に向けた観客ニーズ調査」とし、学生らが調査項目の検討・調査票を作成。当日、回収した調査票は186枚で、調査票の集計データ・分析結果を基に、後日、球団に対してプレゼンテーションを行う。	ビジネス・マネジメント
調査型	NPB	大阪府	オリックス・バファローズ	阪南大学	「オリックス・バファローズと富田林市、阪南大学による産官学連携マーケティング」 企画チームと調査チームに分かれて、富田林市で開催される2軍戦に向けて活動。企画チームは、富田林市職員の方と打ち合わせを重ねて富田林市の名産品を使った飲食メニューを販売する企画を中心に進める。 調査チームは試合会場観客者調査を実施。内容はチケット購入経路や観戦者層、無料バスの認知度など。この調査結果をもとに、来年度の宣伝方法やターゲット、イベント内容について提案予定。	ビジネス・マネジメント

国際研究論叢

タイプ	リーグ	府県	チーム名	大学名	内容	サブジャンル
講義型	Jリーグ	兵庫県	ヴィッセル神戸	甲南大学	ヴィッセル神戸連携講義「現代日本経済」。経済学部では「現代日本経済」という講義の中で、ヴィッセル神戸の関係者の方々から現場の生の声や社会ニーズを聞いた上で、ヴィッセル神戸の本拠地である「ノエビアスタジアム神戸」を活性化させるための方策を企画・検討するという講義を行っている。	ビジネス・マネジメント
講義型	Jリーグ	兵庫県	ヴィッセル神戸	神戸女子大学	オフィシャルパートナー。 健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の特別講義にDF 那須大亮選手とGK 前川 黛也選手が講師として来訪。スポーツ栄養士を目指す学生や教職員、約80名が特別講義に出席した。 食事をするときに留意していることや、どのような栄養士にサポートを受けたいか、といった日頃学んでいるスポーツ栄養に関連する事柄から、最近のチームの事情やサッカーの観戦についてまで、学生からは次々と質問が飛び出した。	栄養
講義型	Bリーグ	京都府	京都ハンナリーズ	大阪成蹊大学	スポーツマネジメント学科が「プロスポーツビジネスの仕組み」をテーマに特別授業を実施。 「スポーツマネジメント実践」の授業において、京都府を本拠地としてB.LEAGUEに所属するプロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」の運営会社であるスポーツコミュニケーションKYOTO株式会社の営業・広報担当取締役 安田良平氏をお招きし、「プロスポーツビジネスの仕組み」をテーマに特別授業を実施した。 また当日の昼休みには、京都ハンナリーズのマスコットキャラクター「はんこヤリン」と一緒に試合の集客PR活動を行った。学生たちはクラブのはつぴを着て、食堂にいる学生にチラシを配布しながら試合やクラブの説明を行い、クラブスタッフとしてのプロモーション活動を体験した。	ビジネス・マネジメント
その他/不明	Jリーグ	大阪府	セレッソ大阪	大阪保健医療大学	シルバースポンサー。「アサヒ飲料チャレンジヤーズ」、「セレッソ大阪」と提携してスポーツ活動の支援を通じて地域の文化振興に貢献している。	-
その他/不明	Jリーグ	京都府	京都サンガFC	京都精華大学	ブロンズパートナー。	-
その他/不明	Jリーグ	京都府	京都サンガFC	京都文教大学	ゴールドパートナー。	-
その他/不明	Bリーグ	滋賀県	滋賀レイクスターズ	びわこリハビリテーション専門職大学	アカデミックパートナー；地域社会で専門性を活かすためのスポーツ・福祉関連分野からの学び	-
その他/不明	Bリーグ	奈良県	バンビシャス奈良	大和大学	サポートカンパニー	-
その他/不明	Bリーグ	兵庫県	西宮ストークス	甲南大学	シルバースポンサー	-